

# 地域連携・がん相談支援センターだより

*Regional alliances and support*

2015

51号



桜日和(撮影者：放射線科部長 永倉久泰)

## 目次

1. 新年度を迎えて
  2. 皆さんと共に、患者さん、地域の皆さんにとって身近な存在であり続けたい
  3. 新職員を紹介します
  6. 連携医療機関のご紹介「れんけいの輪」
  8. 地域連携・がん相談支援センターの新スタッフ紹介
  8. お知らせ
  9. KKR札幌医療センターの理念・基本方針  
編集後記  
地域連携・がん相談支援センター職員一覧
- 同封 外来診療担当医師表  
医療安全管理研修 ネット聴講のご案内



# 新年度を迎えて

病院長 赤坂 嘉宣

日頃、連携いただいている諸先生方には格段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は診療報酬改定の狭間の年ではありますが、まだまだ問題なしとは言えないDPCによる診療体制下、皆様の御協力なしには立ち行かない医療、時には御無理なお願いにも御協力いただき、心から感謝いたしております。

さて、新年度を迎え、三十数名の医師が入れ代わりました。従来より若干若返りましたが診療体制に大きな変動はありません。特記すべきは念願の脳神経外科の医師が3名に増員され、初期臨床研修医は定員通り確保できまして、さらに北大、札医大からのたすき掛け研修2名を受け入れております。各科の部長をはじめ多数の医師が出身大学の非常勤講師に任じられ、北大、札医大とさらに強固に連携を深めております。

高橋看護部長兼副院長が退職いたしました。そのもとで長く次長を務めた岩谷部長体制となり、その方針に大きな変更はありません。

期待されているアベノミクス効果もまだ時間がかかりそうな気配のなか、鏡視下手術において医療に携わる者としての倫理観を問われかねない事件が起きたことは残念な事でした。

医療機器・技術の進歩は目覚ましいものがあり、加えてその導入には先陣争いの如き様相もあり、コンプライアンスを損ねて突っ走ってしまう傾向もあったよ

うです。当院に関しましては早くから外部の方に加わって頂いた倫理委員会、医療安全委員会等関係委員会を整備、その遵守に努めております。また厚生局、保健所等より毎年数回の監査はじめ、ほかに当院の属する連合会には内部の数日にわたる監査もございませ。今までは幸い大きな是正・指導勧告を受けたことは有りませんでした。不幸な事件を契機に、解釈に微妙なずれがあるように思われますが、労基署にサービス残業の指摘を受けるに至り、関係各方面に多大なご迷惑をおかけいたしまして、深く反省いたしております。今後そのような疑念を抱かれることの無い様に、充分配慮してまいる所存でございますので、何卒よろしく今までにもまして御高配賜りますようお願い申し上げます。







# 皆さんと共に、患者さん、地域の皆さんにとって身近な存在であり続けたい

看護部長 岩谷 敦子

この度、4月1日付でKKR札幌医療センター看護部長に就任いたしました岩谷です。

連携医の皆様には、日頃より当院の運営に多大なお力添えをいただき、本当にありがとうございます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

自己紹介をさせていただきます。前職は国家公務員共済組合連合会本部において、医療安全対策専門役として全国34のグループ病院の医療安全対策、感染管理、看護職員の採用に向けた取り組みの支援等を行ってまいりました。「当院のことを何も知らないのではないかと」思われるかと思いますが、私自身は旧幌南病院に新人助産師として就職し、産婦人科、消化器内科、循環器内科、手術室など臨床経験の全てを幌南病院（KKR札幌医療センター）で培った看護師の一人です。また、前任の高橋副院長兼看護部長のもと、看護部次長として看護管理を学ばせて頂き、当院は私にとって「専門職業人としての私」を育ててくれた大切な場所です。

これから看護部長1年生として、スタッフ一人一人が「この病院でやりがいを感じ、誇りをもって働ける病院、家族や周囲の方々に紹介できる病院」と、連携医の皆様や患者さんをはじめとする地域の皆さんに「何かあればKKR札幌医療センターに行けば大丈夫」と言っていただける病院を目指して、スタッフと共に頑張っていく所存です。未熟者ではありますがどうぞ宜しくお願いいたします。

話しは変わりますが、ここ数年病院を取りまく医療環境には大きな変化がありました。2025年問題を見据えた地域医療構想構築と達成を目指した病床機能報告制度のスタートと地域包括ケアシステムの導入です。昨年11月には全国の一般病床・療養病床を持つ病院、有床診療所が報告対象とされ、国に対し自院の医療機能について報告したことはご存じの通りです。

当院は皆様もご存じの通り、平成18年の新病院スタート時より集学的ながん診療と救急医療を病院運営

の柱とし、急性期病院として医療を提供してきました。昨年11月の病床機能報告においても緩和ケア病棟を除くすべての病棟が高度急性期又は急性期病棟として届出し、基本的な病院運営の方針に変更はありません。しかし、高度急性期・急性期医療を提供する病院は入院医療において在宅復帰率75%以上という高いハードルが設定され、外来医療においても地域医療支援病院の要件でもある紹介率、逆紹介率の引き上げが行われ、医療機能の分化を推進していくという医療政策がより鮮明に打ち出されています。当院も今後都道府県レベルで策定される地域医療ビジョンを見据えて、医療を展開していく必要があります。

また、地域包括ケアシステム構築の目的は「国民一人一人（患者さん）が地域で生き活きと生活できる」ことであり、そのためには疾病を持ちながらも住み慣れた地域で生活していくことを可能にするために、医療と介護が連携を強固にしていくことが求められています。当院も地域の中核病院としてその役割を果たすべく、努力していく所存です。今後、ますます連携医の皆様をはじめとする地域の医療機関、訪問看護ステーション等の皆様のご支援をいただければと思っております。

最後になりましたが、当院の地域連携・がん相談支援センターは昨年7月、名称も人員もリニューアルし、少しでも当院を利用していただく連携医の皆様、患者さんやご家族、地域のみなさんのお役にたてるよう努力をしております。また、がん診療連携拠点病院として、地域医療支援病院として、研修会等も積極的に開催し、連携医の皆様やスタッフのみなさんとも知識・技術の向上を図りつつ、交流を深めていきたいと思っております。どうぞお気軽に地域連携・がん相談支援センターをご活用いただければと思っております。

看護部長1年生の私同様、当院の地域連携・がん相談支援センターを、今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 一口メッセージ： 心臓血管外科開設 10 年たちました！

2005 年、KKR 札幌医療センターに心臓血管外科が産声をあげ、丸 10 年がたちました。連携医の皆様方から多くの患者様をご紹介頂きましたおかげで、2000 人以上の患者様の診療、手術を施行させて頂くことができました。またご紹介頂いただけでなく、術後患者様の投薬加療などにおいても随分お世話になりました。今までの 10 年の皆様のご厚情に感謝の念を忘れず、今後の 10 年も皆様の診療にお役に立てますよう、一層精進してまいりますので今後ともよろしくお願いたします。

心臓血管外科 山内 孝

## 一口メッセージ： 産婦人科の患者さんを是非ご紹介ください

日本産婦人科学会専門医 4 人と臨床研修医 2 人の 6 名体制で、婦人科癌・良性疾患・急性疾患・周産期合併症・正常分娩・更年期疾患・不妊症などの診療に当たっています。悪性腫瘍は、早期治療をこころがけています。妊娠 32 週以降の母体搬送患者さんを小児科と連携し引き受けています。手術には子宮鏡、腹腔鏡など内視鏡手術を積極的に取り入れ、悪性疾患にも適応をひろげつつあります。

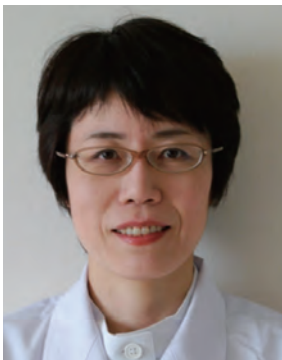
産婦人科 涌井 之雄

## 新職員を紹介します



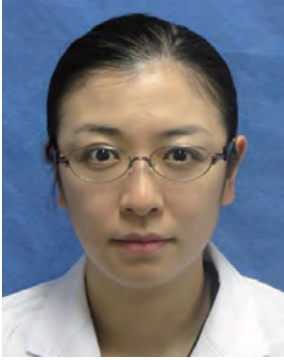
### 加藤 竜男 (整形外科医長)

2005 年度に一年間お世話になりました。その後、網走 2 年、帯広 7 年の地方勤務を終え、再び戻ってまいりました。主に下肢疾患を専門としており、人工関節置換術（特に股関節）を得意としております。どうぞよろしくお願申し上げます。



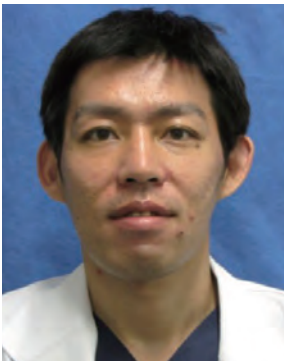
### 大倉 有加 (小児科医長)

私は幌南病院時代に半年間勤務しておりましたが、このたび 12 年ぶりにまた戻って参りました。大学では免疫班に所属しており、膠原病、先天性免疫不全症、アレルギー性疾患などの診療にたずさわっておりました。少しでも多くの患者さんのお役にたちたいと考えておりますので、お困りの患者さんがおりましたらいつでもご連絡いただけましたら嬉しく思います。これからどうぞ宜しくお願申し上げます。



## 若山 明子 (眼科医長)

眼科 10 年目の若山明子です。眼科一般を診察しております。  
 若輩者ではございますが、ひとりひとり丁寧な診察を心がけております。  
 今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



## 栗栖 宏多 (脳神経外科医師)

この度、KKR 札幌医療センター脳神経外科に赴任いたしました栗栖と申します。北海道大学を卒業し、今年で 10 年目になります。着任後は主に脳神経外科領域における血管内治療を

導入しようと思っております。近年目覚ましい進歩を遂げている領域であり、これまで諸々の理由から治療を断念していた患者さんにも、低侵襲に良質な治療を提供できるようになります。当院での治療の裾野はどんどん拡大していく気概がありますので、地域連携医の先生方からのご紹介をお待ちしております。今後ともよろしく願い申し上げます。

### 一口メッセージ： 脳神経外科の医師が 一人増えました

2015年4月より、脳神経外科の医師が一人増えました。北海道大学病院から赴任してきた、栗栖宏多医師は、脳神経外科領域全般の疾患、治療に精通しておりますが、中でも特に血管内治療の専門家として、腕を振るっています。

失語、片麻痺等、脳卒中の可能性のある患者さんがいらっしゃいましたら、ご相談いただけますと幸いです。

2015年4月からは、金曜日の午後も外来を開いております。当科医師が院内にいれば、外来診療時間を過ぎていても対応いたしますので、地域連携室までお電話をください。

脳神経外科 加藤 正仁



## 今 雅 史 (泌尿器科医師)

KKR 札幌医療センターに本年度より赴任致しました、泌尿器科の今雅史と申します。

専門は小児泌尿器科ですが、泌尿器一般（排尿障害や、泌尿器癌等）全て担当させて頂いております。地域の皆様のお役に立てるよう、頑張りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 松 蘭 絵 美 (消化器内科医師)

KKR 札幌医療センターで初期研修終了後、消化器内科医として勤務しております。この 2 年間は胆膵科で診療を行っておりました。その経験を生かし、胆膵疾患を中心とした消化器診療に励みたいと思いますので、よろしくお願い致します。







## 横山 英恵 (眼科医師)

4 月より赴任して参りました眼科の横山と申します。

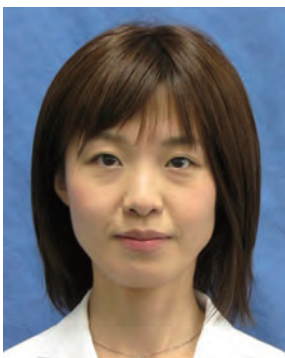
白内障手術、外来診療にあたります。  
よろしくお願い致します。

## 徳山 英雄 (麻酔科医師)

このたび KKR 札幌医療センターに赴任した麻酔科の徳山と申します。

麻酔科ということで地域連携医の諸先生方と直接お話しする機会は少ないかと思いますが、手術を受けられる患者さんのケアおよび重篤な患者さんに対する集中治療をバックアップするという形で診療に参加していきたいと思っております。

私は札幌出身であり札幌の医療を支えることに少しでも貢献できれば幸いであると思っておりますのでよろしくお願い致します。



## 清水 亜衣

(病理診断科医師)

はじめまして。医師 6 年目の清水亜衣と申します。旭川医科大学卒業、初期研修の後、東京のがん研有明病院の病理部で 2 年間研修しました。結婚を機に北海道に戻り、北海道大学

病院病理部 / 病理診断科の大学院に入学させて頂き、現在大学院生 2 年目です。経験が浅いため、病理診断を語る言葉を持ちませんが、自然と熱中してしまうのは肺と乳腺です。今は病理全般の知識を深めつつ、いずれは専門領域を持たらと思っております。

### 一口メッセージ：

#### 春の健診シーズンが始まりました

各健診センターや人間ドックに代表される個別検診で胸部異常陰影を指摘され、先生のクリニックにご相談に来院された患者さん、いつでもご紹介ください。地域連携室に患者さんの都合の良い日時をご一報いただければ、胸部 CT 撮影を組み入れて呼吸器科受診の予約をいたします。既に CT 撮影済みでしたら、事前に郵送いただければ当科で再度読影し、更なる検査の予約を速やかに行います。まずはご一報ください。

呼吸器・腫瘍内科 磯部 宏

## 連携医療機関のご紹介 「れんけいの輪」

日頃、連携をさせて頂いている当院の連携医の先生を紹介します。  
今回は、「コロンビア内科」の小谷 晃司先生と「荻谷内科クリニック」の荻谷 克俊先生をご紹介します。

# コロンビア内科

院長 小谷 晃司

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目  
時計台スクエアビル4階  
☎ 011-207-2227 Fax 011-207-2228

当院は平成12年に故・川崎久郎先生が開院された「かわさき内科循環器科」を平成22年に小生が継承して名称もあらたに「コロンビア内科」と決めました。川崎先生が循環器一筋でいらしたのに対し、小生は院長就任まで20年余のキャリアのうち前半を麻酔科医としてKKR札幌医療センターをはじめ（その節は大変お世話になりました）道内および米国内の手術麻酔、救急医療、集中医療の現場で過ごし、その後内科に転向して北海道大学病院ほかにて再研修、併行して在宅ターミナルケアなど訪問診療にも従事するという医師人生を歩んでまいりました。当院をお引き受けした当初は胃カメラなら北海道でも1番とか甲状腺ならここにお任せといった絶対的な専門性を持たないままにこのような大都市のご真ん中、医療機関の超過密エリアに飛び込むことに一抹の不安を覚えました。フタを開けてみれば街には実に多様な医療ニーズが存在しており、当院のように内科と外科、あるいは西洋医学と漢方といった垣根にとらわれず、「なんでも相談できる家庭医」として総合的な医療を提供する診療所にも十分に存在意義があることを実感しています。

アップルコンピュータの創始者S・ジョブズ氏は名門大学を中退したのちに全く専門外のカリグラフィの授業の自主聴講を始め、自分でもこれが人生の役に立つことはないだろうと思いつつも美しい書体を熱心に学んでいくのですが、後に彼がコンピューターの開発に携わった際にそのノウハウは大いに生き、沢山の美しい書体を搭載したMACのパソコンは世界的な大ヒットを果たしたのでした。彼は「大学中退、自主聴講、パソコン開発とその成功といった個々の事柄の繋がりは大学時代には予想も出来なかったが10年経ってからそれぞれの点

の繋がりに気付くことが出来た。」と語っています。「今やっていることがどこかに繋がると信じよう。自分の根性、運命、何でも構わないから信じて進もう。その点がどこかに繋がると信じていれば他の人と違う道を歩いても自信を持って歩き通せる。」という彼の言葉をかみしめながら日々、診療に当たっている次第です。



# 荻谷内科 クリニック

院長 荻谷 克俊

〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条1丁目7-1 1  
☎ 011-832-2521 Fax 011-832-2521

当院は平岸の北の端にあり、平成12年11月に開業しました。現在15年目に入りましたが、開院当初より最も近い総合病院であるKKR札幌医療センターにはいつも大変お世話になっております。

当院は当初より一般内科としてプライマリケアを中心に診療を行ってきました。開院は介護保険が始まって間もなくでしたが、当時と現在を比較して、格段に介護保険を利用する患者さんが増えたことを実感しております。と同時に、患者さんの高齢化も顕著で、数名ですが訪問診療も要請されるようになってきました。

開業当初の理念は、「出来る限り患者さんの要望に応える」というものです。特に特徴のない診療所ですから、患者さんの訴えに真摯に耳を傾け、自分で診るべき患者さんは責任を持って診させていただき、総合病院などの専門施設を紹介すべき患者さんは、速やかに受診できるように取り計らうように努力しております。もちろん紹介先は圧倒的にKKR札幌医療センターが多いですので、今後とも病診連携を密に保っていきたくておりますのでよろしくお願いいたします。

学会活動としては、日本内科学会、日本糖尿病学会、日本消化器内視鏡学会、日本プライマリケア連合学会、日本アレルギー学会の会員として幅広い見識を深めようと努力しております。

微力ながら今後も地域医療に貢献して参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。





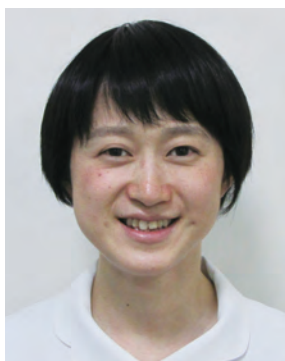
## 地域連携・がん相談支援センターの新スタッフ紹介



平田 公子 (ひらた きみこ)

はじめまして。平成27年2月より、地域連携・がん相談支援センターに配属になりました看護主任 平田 公子と申します。当院は、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院としての機能を果たす責任を持っています。そのような中で、訪問看護師として地域の医療機関や患者様に、顔の見える連携を図りつつ、貢献できたらと考えています。

今後ともよろしく申し上げます。



長谷川 明河 (はせがわ あきか)

平成27年4月より地域連携・がん相談支援センターに配属となりました、長谷川 明河と申します。地域連携・がん相談支援センターの前は、旭川医科大学病院 ICU に4年、当院泌尿器科・耳鼻咽喉科・放射線科・代謝内分泌科の混合病棟に8年ほど勤務しておりました。地域の患者様や連携医療機関の皆様への当院に対する信頼に誠心誠意お応えできるよう、素早くかつ円滑な連携を心がけ努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

**「北海道肺がん患者と家族の会」**のお手伝いをする事になりました。

これは肺がんの治療中や治療後の患者さん、その家族の方が集い、共に語り、情報交換する場として設けられるものです。参加費・事前申し込みは不要で、北海道肺がん患者と家族の会が主催され、当院が共催し会場を提供する形になります。

先生方が診られている肺がん患者さん・ご家族で、同じ経験を持つ患者・家族と対話や情報共有を希望される方がおりましたら、是非この会をご紹介ください。

- 日 時 : 平成27年5月20日(水) 午後1時~3時(今後、奇数月に開催予定)  
場 所 : KKR札幌医療センター 会議室  
問い合わせ先 : 当院医療社会事業相談室  
アドバイザー : 磯部 宏(副院長、地域連携・がん相談支援センター長)

## KKR 札幌医療センター 理念

「病院は人」のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります  
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします  
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

## 基本方針

1. “生活の質” 向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します

## 編集後記

今年は桜の開花予想も早くすっかり春らしくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日は北海道知事選挙があり投票率は過去3番目の低水準であったようですが、院内の不在者投票はいつも以上に希望者が多く患者さんの関心の高さがうかがえました。

新年度もスタートし新しいメンバーも加わりました。地域連携・がん相談支援センターでは一丸となり連携医療機関の皆様、患者さんのお役に立てるように頑張っていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

医療社会事業相談室  
ソーシャルワーカー 木村 府佐子

## KKR 札幌医療センター

〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40  
TEL 011-822-1811(代)

連携いただいている先生方よりお受けしております  
地域連携室直通 TEL 0120-552-303  
FAX 011-832-9624

医療施設・患者・家族よりお受けしております  
がん・緩和ケア相談 TEL 011-832-3260



## 地域連携・がん相談支援センター職員

センター長 磯部 宏 (兼副院長)  
副センター長 齋藤 敦  
センター師長 湯瀬 美佳子  
地域連携室 長谷川 明河 看護師  
島田 久子 看護師  
大石 ひろみ 事務員  
小口 知美 事務員

医療社会事業相談室 松田 知恵 社会福祉士 (主任代行)  
木村 府佐子 社会福祉士  
宮崎 雪枝 社会福祉士

在宅看護・退院支援室 室長 福島 綾子 看護師 (主任)  
平田 公子 看護師 (主任)  
小松 友希 看護師

がん相談担当師長 平山 さおり (兼緩和ケア病棟師長)